

## 英米文化研究会役員（令和5年度）

会長：日影 尚之（2012年～）

理事：渡邊 信（2010年～）

庶務：田中 俊弘（2012年～）

会計：佐藤 良子（2018年～）

会計監査：望月 正道（2012年～）

編集委員：Kristie Collins（2023年～）、伊藤 綾香（2023年～）、Jason M. Morgan（2017年～）

A. Nicolai Struc（2012年～）、高本 香織（2015年～）、田中 俊弘（2022年～）

## 令和5年度の活動

### 令和5年

9月30日（土）『麗澤レビュー』第29号刊行

### 令和6年

2月28日（水）例会（対面とZoomのハイブリッド開催）

小田理代「AIと語学学習 / AI supported language learning」

中道嘉彦「英語音声学、英語史、英語教育 / English Phonetics, History of English, and English Education」

2月28日（水）総会（対面とZoomのハイブリッド開催）

## 編集後記

『麗澤レビュー』第30号をお届けします。麗澤大学英米文化研究会は、岩元巖先生のお声かけで英語学科／専攻教員の学術交流促進を目的に立ち上がり、今日まで活動を続けてきました。研究会を30年継続させるのは決して簡単なことではありませんし、ここまで会を支えてくださった歴代の役員・会員の皆様の献身の賜物だと思います。

大学は工学部と経営学部を加えた5学部体制となり、新しい校舎「さつき」が出来てキャンパスの雰囲気も大きく変わりました。英語専攻教員が多く関わるデジタルコミュニケーション研究センターも開設され、大学・学部の重心も少しずつシフトしつつあります。そうした変化はもちろん有意義だと思いますが、その中で「古き良き」交流環境を残していくことが、研究会に課されているタスクの1つのように感じています。

田中 俊弘

今年も『麗澤レビュー』を皆様にお届けできますことを嬉しく思います。今号は、記念すべき第30号です。会員の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

さて、令和6年度に、麗澤大学ではデジタルコミュニケーション研究センターが設立されました。センター長の小田理代先生の頼もしいリーダーシップのもと、初代メンバー（千葉庄寿先生、田中俊弘先生、斎藤貴志先生、伊藤綾香先生、新任の西澤倫先生、そして、私、高本）が試行錯誤で取り組みを開始しました。工学部からは小塩篤先生もオブザーバーとして参加してくださっています。工学部の始動にあわせて、本学でもいよいよ本格的にデジタル・AIを活用した社会に対応するための教育・研究に舵を切ったと言えるのではないのでしょうか。

そんなわけで、今回の『麗澤レビュー』には同センターの取り組みに関連した研究も掲載されています。今後英米文化研究会はデジタルコミュニケーション研究センターと協力関係を深めていくことになるでしょう。変化する社会に適応しつつ、『麗澤レビュー』も進化していきますので、今後とも皆様のサポートをよろしくお願いいたします。

高本 香織

# 麗澤大学英米文化研究会規約

- (1) 本会は「麗澤大学英米文化研究会」と称し、本部を千葉県柏市光ヶ丘2-1-1 麗澤大学外国語学部英語二専攻共同研究室におく。
- (2) 本会の会員は、麗澤大学において英語・英米文化の教育・研究に携わる専任教員、あるいは会員1名の推薦を受け、会長の承認を得た者とする。
- (3) 本会に会長をおき、その任期を2年とし、再任をさまたげない。なお、会長の選出は、年次総会における会員の互選とする。
- (4) 本会に副会長（1名）、理事（2名）、庶務（1名）、会計（1名）、会計監査（1名）、編集委員（若干名）をおく。任期は2年として、再任をさまたげない。なお、その選出は、年次総会における会員の互選による。
- (5) 本会の会費は年2千円とする。ただし会員が学生の場合は年1千円とする。
- (6) 本会は、英米文化、言語全般および関連分野の研究を行うことを目的とし、以下の活動を行う。
  - 1) 研究発表会  
年数回。随時発表者を決めて会員の研究発表会を行う。
  - 2) 年次総会  
年1回（6月の土曜日）。内外より講演者を招き、特別講演会を開催する。
  - 3) 機関誌『麗澤レビュー』の発行

## 付 則

- (1) この規約は、平成16年6月12日から改正、施行する。
- (2) この規約は、平成22年6月26日から改正、施行する。
- (3) この規約は、平成23年6月11日から改正、施行する。

令和6年9月30日発行

発行者 〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1  
麗澤大学外国語学部  
麗澤大学英米文化研究会  
email: reitakusocietyeac@gmail.com



Cover Design  
by T. Murakami

Reitaku Society for  
English & American Cultures